

三輪陽子議員の反対討論

令和4年度江南市一般会計補正予算について 日本共産党を代表して反対の立場で討論をします。

補正予算の大部分は新型コロナウイルス感染症や各種事業の清算による減額ですが、看過できないのが曾本地区の新工業用地整備事業基金積立金の3億円です。

この基金への積み立ては12月の補正予算で1億5千万円積んだばかりで今回の分を含めて合計が5億5千万円になります。

曾本の工業用地については今ある優良な農地を工業用地に変えて、多くの工場を呼び込み、雇用の創出と法人市民税の増加を図るという計画です。しかし、質疑でも明らかになったように、法人市民税の税率が下がっているため、投資額を回収できるのが80年後という気が遠くなる計画です。さらにまだ地権者の1割が土地を売ることに同意していないこと、発掘調査や周辺整備に多額の費用がかかること、さらに雇用の創出が見込めるとの話ですが、10年、20年後には工場で仕事をしているのはほとんどロボットという可能性が大きく、仕事は自宅のパソコンでという事が考えられます。食料自給率の極端に低い日本で、そのころは食糧難に陥って、農地を残しておけばよかった。と後悔することの方が現実的であると思われる。このようにリスクばかりが目につく曾本地区の工業用地整備事業はきっぱりやめた方がよいと思います。

この災害級の物価高の中、今基金をためることに市民は納得できないでしょう。

今電気代など光熱費をはじめとして急激な物価高騰で市民の多くから生活が苦しい、もうこれ以上節約できるところがないとの痛切な声が上がっています。

今この3億円を使って例えば給食費を半額にするとか、水道料金や下水道料金を補助するとか国保税などの値下げをするなど直接市民を市として応援する予算として使うべきであり、この積み立てには断固反対です。